

<株式会社エフエム東京 第 4 2 9 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 28 年 6 月 7 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（5 名）

| | |
|---------------|------------|
| 横 森 美 奈 子 委員長 | 渡 辺 貞 夫 委員 |
| 内 館 牧 子 委員 | 秋 元 康 委員 |
| 川 上 未 映 子 委員 | |

◇欠席委員（1 名）

ロバート・キャンベル 委員

◇社側出席者（10 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
村 上 取締役 編成制作局長
山 科 常勤監査役
森 田 マルチメディア放送事業本部 ゼネラルプロデューサー
延 江 編成制作局 ゼネラルプロデューサー
宮 野 編成制作局 編成制作部長
増 山 編成制作局番組プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 村上放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 24 分）
『三井ホーム presents キュレーターズ～マイスタイル×ユアスタイル～』
2016 年 5 月 8 日（日）8:00～8:25 放送

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■2016 年 4 月度 聴取率調査結果について

2016 年 4 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査結果が、ビデオリサーチより発表されました(調査対象期間:2016 年 4 月 18 日～4 月 24 日)。

ラジオメディアの価値が再評価され、ラジオ全体のセッツインユースが昨年 12 月調査以来引き続き顕著な上昇傾向を示していますが、その中で今回当社は 12～59 歳区分及び 12～69 歳区分それぞれで在京局中唯一スコアを上げ、幅広い世代の支持を広げる結果となりました。12～59 歳区分のリーチ(到達率)はこの一年では最高値となり、14 期連続で単独首位を継続しております。

コアターゲット M1F1 層(男女 20～34 歳)においては、M1 層では従来からの課題を残しており、M1F1 合算では僅差で 2 位でしたが、F1 層では昨年度 6 回の全調査でトップとなり、今回さらに数字を伸ばし引き続き単独トップを獲得、20 代女性、30 代女性区分においても第一位で「女性に強い TOKYO FM」というブランドイメージを堅持しました。

引き続き当社の特長であるリーチの高さをキープしながら、若者層を中心に幅広いリスナーに共感される話題、選曲、そして継続聴取、聴取頻度のアップを図った企画演出を講じコアターゲット首位奪回を目指します。

■第 53 回 ギャラクシー賞 ラジオ部門に TOKYO FM の 3 作品が入賞

6 月 2 日「第 53 回ギャラクシー賞」(放送批評懇談会)の贈賞式が行われ、ラジオ部門において TOKYO FM 制作の番組が選奨 2 作品、奨励賞 1 作品の合計 3 作品が受賞しました。

＜選奨＞

・Date fm(エフエム仙台)・TOKYO FM 共同制作

『ライターをつぶやき～河北新報の 5 年～』(2016 年 3 月 6 日放送)

・『SCHOOL OF LOCK!』(2016 年 2 月 17 日放送「学校なんか早く卒業したい」)

＜奨励賞＞

・戦後 70 年特別番組 『ポップコーン・オン・ザ・ギンザ 1945-1952』

(2015 年 8 月 31 日放送)

TOKYO FM では、今後もクオリティの高い、リスナーの心に届く放送を目指して番組制作をまいります。

■高橋みなみの「これから、何する？」が、「Yahoo! 知恵袋」とコラボレーション

本年4月に始まった平日午後ワイド番組『高橋みなみの「これから、何する？」』は、若者リスナー・次世代リスナーの拡大獲得に注力するため、当社コアターゲットであるF1層＝働く女性リスナーを応援する共感コミュニティ形成を目指すべくスタートし、開始早々の4月度聴取率調査ではF1層、20代30代女性で同時間帯トップ、さらに平日全番組中でもF1は最も高いスコア獲得しており順調に推移しています。

この番組では、スマホコミュニケーション世代のターゲットリスナー獲得を最大限図るため、番組を軸としたLINEやインスタグラムといったSNSプラットフォームを駆使した統合メディア戦略を積極的に展開しており、番組リーチの向上と話題の拡散に一定の成果が顕れはじめています。

その一環の成果事例として、番組内容を活字化して配信する自社ニュースメディア「TOKYO FM+」を活用して、『これから、何する？』の番組記事を高橋みなみの撮り下ろし写真と共に毎日配信しています。この記事がYahoo!やSmartNewsといった大手ニュースアプリにも掲載され、PV(ページビュー)が10万～20万PVで推移するなど日ごとにアップしており、番組発の話題喚起とバズ創出の装置として、新規リスナー開拓に成果をもたらしています。

高橋みなみ ロンブー田村淳にフルボッコ! 「こんなイタイ女いない」



高橋みなみがパーソナリティをつとめるTOKYO FMの番組「高橋みなみの『これから、何する?』」の5月17日の放送では、ロンブー淳1号2号の田村淳さんをゲストに迎え「恋愛」について語りました。



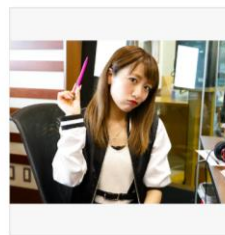
ロンブー淳さんの恋愛観は的確でした!

▲5月17日放送

高橋みなみ「死ぬのは絶対にもったいない!」



2016-05-10 (火) 14:50



高橋みなみがパーソナリティをつとめるTOKYO FMの番組「高橋みなみの『これから、何する?』」の5月10日の生放送では、前日に起こった「女子中学生2人が電車にはねられ死亡」のニュースを取り上げました。学生時代にいじめられた経験があるというたかみは、「いじめの原因とはまだ報道されていない」としつつ、このニュースについて語りました。

つづきを読む(記事全文)

▲5月10日放送

さらに新たなWeb施策展開として、高橋みなみがリスナーのお悩みに答える番組内コーナー「ひとつのアンサー」と、Yahoo! JAPANが人気コンテンツ「Yahoo!知恵袋」とのコラボレーション企画を、5月30日からスタートしました。「Yahoo!知恵袋」上に開設した特設ページでは、「たかみなへの相談の投稿」と「たかみなの質問への回答」を受け付けています。インターネット上での人気コンテンツ「Yahoo!知恵袋」と番組が相互乗り入れすることにより、Webから接触したノンリスナーをTOKYO FMの放送に誘導し、新たなリスナー開拓の一助となることを目指して始まった取り組みです。今後も、インターネ

ットやSNS等を放送と積極的に関わり合わせ、当社編成方針「統合メディア戦略」×「共感コミュニティ形成」を加速させる番組作りを積極的に取り組んでまいります。



▲【たかみなに相談！】

Yahoo!知恵袋に頂いた投稿の中から、番組がセレクトした「お悩み投稿」に対して、たかみななりの「ひとつのアンサー」をお答えします！

▲【答えて！たかみなからの質問】

たかみながYahoo!知恵袋に質問を投稿。みなさんからの回答をお待ちしています。ベストアンサーは番組内でご紹介します。

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

○パーソナリティの募集した質問にリスナーが答えるという番組はよく聴くが、リスナーの質問にパーソナリティが答えるという設定は、逆のパターンで珍しいし、面白い試みだと思う。

■おっしゃる通り、毎日のテーマ設定をもとに番組パーソナリティである高橋みなみさんが世の中に対して等身大の目線で一石を投じ、リスナーのみなさんからメッセージを寄せてもらいながら番組とともに成長・学ぶところがこの番組の目玉である。10年前に「SCHOOL OF LOCK!」を編成した当時には番組だけ

でなく、当社サーバー上に置いた「番組掲示板」を活用することで全国のティーンリスナーを巻き込んでいくという、当時では目新しい戦略を取り、それが一定の成果を挙げた。今回は「Yahoo!知恵袋」というメディアにいるスマホ世代のノンリスナーたちをどれだけリスナーにさせることができるか、という部分が大きいポイントになっている。

○確かに自分が見ている中でも「Yahoo!知恵袋」にいる潜在的なリスナーというのは非常に多いと思うので、いいところに狙いをつけたと思う。

■ラジオのセットインユースが上昇傾向を示しているというのは、最近雑誌でも「ラジオを聴こう」とか「ラジオを見直そう」という企画を結構よく見るので理解できる。現在、“ラジオを聴く流行”がきていることについて、どういう要因が考えられるか。業界内からの意見を聴かせてほしい。

○昨年12月のセットインユースは特に大きく伸びたのだが、その要因としては、難聴取地域対策にFM電波を活用する取り組みで、AM局全体がワイドFMを大きく打ち出していたキャンペーンによるものだと考えられる。しかし個人的な実感としては、ニュースや報道、編成や視聴率など、TVにまつわるさまざまな問題が業界の外側にまで見えている中、視聴者がTVに対して求めるクオリティに追い付けなくなっているように感じる。対してこれまでラジオ界が真摯に取り組んできた質や本物感に対して、一定の評価を得られるようになった結果がラジオのセットインユースの上昇なのではないかと考える。今回4月の聴取率調査ではさらに上がったのだが、これは熊本地震の際に報道機関としてのラジオメディアが新たに信頼を獲得できたことによるものであると思う。また、新しいリスナーが増えてきているという実感も日々の番組で手応えがある。

■実際にTVを見ていると、勢いが落ちていると感じる。また、最近は老若男女問わず常にスマホを手放さずに情報交換をしているので、全ての行動が一種「ながら状態」になってしまっているのでは。そのような日常の中ではTVに比較して、ラジオの方がメディアとしての接続がスムーズでインタラクティブなものに感じるのではないか。

○TVの視聴率に関連があるかどうかはわからないが、見逃し視聴ができるTVer(ティーバー)という機能は、徐々に視聴者が増えているようだ。つまりリアルタイム視聴ではない人が増えてきている事実はある。

■TVのセットインユースが以前に比べて低くなっていることは間違いない。ひと昔前であれば、どこの家庭でも日常的にあった“家に帰ったらすぐにTVをつ

ける” “起きたら TV をつける”、という習慣が今はない。TV 自体を見なくなったとか、あるいは以前であれば一日 3 時間見ていた人が今は 1 時間しか見ないとか、そういう現象が起きている。では、これまで TV を見ていた分、何をしているのかというと、おそらくスマホをいじっているか、スマホから接続しやすいものに接触しているか、ということになる。だから可能性として考えられるのは、スマホから radiko を含めたラジオに行くとか、ながら聴取が増えているとかいうこと。加えて、みなさんがおっしゃるように TV 業界全体が迷走していることが大きな問題であることは確かである。どこの TV 局も出演者も同じだし、企画も似たようなものばかり。そういう意味では、これまでラジオに接触してこなかった人、メディアとしてのラジオを知らなかった人たちにとって、独自の路線で突き進んできたラジオ文化が改めて新鮮に見え、漢方薬のようにじわじわ効き始めた時期が“今”であるような気がする。以前よりも接触する人が増えたこの時期に“ラジオの面白さ”をどれだけ浸透させることができるか、ということで TOKYO FM の今後が変わってくると思う。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『三井ホーム presents キュレーターズ
～マイスタイル×ユアスタイル～』

【放送日時】 2016年5月8日（日）8:00～8:25 放送

【番組概要】

本日まで試聴いただくのは、5月8日(日)に放送した、『三井ホーム presents キュレーターズ ～マイスタイル×ユアスタイル～』のダイジェストです。

この番組は、異なるフィールドで活躍する2人“キュレーター”の対談から今の時代を象徴する「上質な暮らしかた」について考えるというコンセプトで、本年4月スタートした新番組です。

本日まで試聴いただく放送回のテーマは、著述家の湯山玲子さんと、映画コメンテーターの有村昆さんが考える“オトコの幸せ、オンナの幸せ”です。ディズニー映画で描かれる女性像の変化や男性の仕事論、仕事と家庭のバランスなどのトークから、従来とは男女ともに定義が変わってきた現代の「幸せの価値観」事情について探っていきます。ナビゲーターはミュージシャンの土岐麻子さんです。



▲湯山玲子氏、有村昆氏

当日のオンエア曲

- Try Everything / SHAKIRA
- You Gotta Be / Des' ree

当日のキュレーター・プロフィール

- 湯山玲子：1960年生まれ 東京都出身 大学卒業後「ぴあ」を経て著述家に
- 有村昆：1976年生まれ マレーシア生まれ 大学卒業後、映画評論家に

これまでの番組テーマ

★古内東子（アーティスト）×落合務（料理人）

・「食」と「音楽」の共通点とは？ ・恋と料理の関係性

★湯山玲子（著述家）×有村昆（映画コメンテーター）

・仕事をしていて最高の瞬間 ・オトコの幸せ、オンナの幸せ

・違いを楽しもう！ ・今のライフスタイルに合うのは持ち寄りパーティー！

★SHIHO（モデル）×ニコライ・バーグマン（フラワーアーティスト）

・お花のある暮らし ・仕事と家庭のちょうどいいバランス

・おうち時間の大切さ

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側説明）

○非常に面白かったし、TFMらしい番組だな、とも思った。しかし、冒頭からいきなり「幸せ」をテーマに語られることには、ちょっとした違和感があった。というのも、TV制作者の間でも最大のテーマになっているが「幸せ」のような茫洋としたテーマについて語るとき、TVコメンテーターは何をバックボーンに話しているのだろう、ということ。事件でも不倫問題でも、偉そうにコメントするけれども“なぜあなたがそれを語るの”ということがよくある。

今回の番組についても、いきなり「幸せ」について語り始めることで“この2人は「幸せのプロ」なのかな”と錯覚してしまうが、次のパートで有村さんのご実家に伝わる「幸運術」のようなものを聴いて非常に納得できた。つまり構成的には、有村家代々の「幸運術」があって“こういうことを考えている人たちが語る「幸せ」というのはこうなんだ”という流れであれば、聴いた誰しもが納得できたと思う。おそらく話の流れとしてこうなってしまったのかもしれないけれど、構成的にはずらした方がリスナーに対して親切だと感じる。最初から“ディズニーが”と言われるとディズニーはそうかもしれないけれどね、とかあるいはこの方たちのプロフィールを知らない人が聴いた場合にはこの人は“世界一幸せな人なの？”と思われる可能性が高いと思う。例えばブータンの人が語るなら“世界一幸せな国”という前提条件があつての発言、だと理解できる。

あとは、果たしてナビゲーターが必要なのだろうか、ということ。ナビゲーターが話す時間分、もっと2人の話を聞きたい。もっと具体的な話、例えばケンカしたときや落ち込んだとき、悲しいことがあったときにはどうしたらいいのか、などについて聴きたいし、この2人であれば話してくれそうな気がする。「幸せ」っていうのは結局、価値基準がわからないと「幸せ」だとわからない。

だから結局は人生の最終で、他の全ての要素を「幸せ」が勝ち越せばいいんだと思う。勝ち越すためには、「幸せ」なときではなく、「不幸せ」なときにどう過ごすか、っていうことが一番大事なことだと思うが、そういう話をこの2人に聞きたい。ナビゲーターである彼女が聴いたことは、リスナーである我々も聞いているわけだから、感情が重複してしまう気がする。みんなが当然思うであろうそのコメントを言う手間が不要だ。

もしかしたらTVだけではなく、ラジオも抱えている問題はそこを壊すことなのではないか。つまり昔から、前枠があって後枠があって、というラジオ番組の構成が変わっていないから変わらない。冒頭にある“毎週いろんなジャンルの方をお招きしてお話を伺う”という番組説明がなくても“聴けばわかる”、っていう時代になったのではないか。中継やライブも昔なら構成があったが、今は、そのまま見せてほしい、というようになってきている。メディアに対しても、きれいに精米せず、胚芽米のような全部の要素があるようなものをバリバリ消費したい、と求められている気がしている。

○キュレーターが湯山さんと有村さんだったので期待していた。テーマにもよるのかもしれないが、新しいことを言っているようでもないし、あまり面白いと感じられなかった。ゲストのキュレーターにもよるだろうし、テーマ設定にもよると思うが、今回はとても魅力的な2人の出演にもかかわらず残念だった。後半は少し興味のある話がないこともなかったが、全体的に何となく盛り上がり欠けたまま25分が終わってしまった。ナビゲーターが一生懸命にありきたりな言葉にまとめようとしていたけれど、もっと工夫の余地があると思う。

○この番組のテーマである「上質な暮らし方」の意味を考えていたが、あまりにも茫洋としたテーマすぎてわかりづらい。もっと別のテーマ設定を考えた方が良いのではないか。また、聴感上の雰囲気だと有村さんの話すスピードが速い上に、湯山さんも合わせるように早くなっていっており、テーマからイメージするような“豊かな時間”といった空気感ではなかった。その上、トークの後ろのBGMのボリュームも大きく、話を聴かせる番組として成立していないと感じた。もっと演出面の工夫が必要なのではないか。

○このような番組は出演する2人の妙が醍醐味である一方、マッチングが難しいのだろうな、と思った。というのも湯山さんが書かれた文章を拝見したことがあるが、今日聴いてみると、ラジオでおっしゃっていたことよりも紙の方がはるかに面白い、と思ってしまった。それは今回の番組が、ラジオ用にチューニングされた内容だったのかもしれないし、この番組自体が目指しているムードというものに自然と合わせていった結果なのかもしれない。でもやはり客観的に見て、有村さんは「幸せ」というものを信じていて保守的な考え方を持っ

ており、対して湯山さんは世の中をもっとクールに鋭く見ている。番組全体に対してまず思ったことは、違う価値観を持つ2人がいるのに、結果として何も起きていない、ということ。あとはやはり“オトコの幸せ、オンナの幸せ”というテーマ自体があまりにも漠然としすぎている。聴き終わった後にワンフレーズでも、ワンオピニオンでも聴いた人に残らないといけないと思うのだが、それが感じられなかった。

クライアントが住宅メーカーということもあって、番組のムード自体も“何気ないおしゃべり”という雰囲気重視しているのかもしれない。でもやはり、今は一口に「幸せ」といってもTwitterやネットですごく刺激的な議論が交わされている。今回のように初歩的な、男はこうだよ、女はこうだよ、っていうことを言われても何の議論にも発展しない。それが肯定的な意見であれ、否定的な意見であれ、「ツッコミたくなる」という要素はすごく大事だと思うし、それがこの2人であれば、もう少し出たのではないか。やはり公共的にチューニングされたものは安心感があるが、どこまで印象に残るものを作るかということになってくると、本当のことが知りたいと思う。これを言ったら、みんなに嫌われるかもしれないけど、っていうくらいのことを言ってくれるゲストだと、また次も聴いてみようかな、と思うだろう。好かれない人が多い中、その中で嫌われることを厭わない人というのは、やはり光るし、大事だと思う。

○今回以外の回のキュレーターリストを見ても、この人たちいかにもこういうことを話すのね、ということではなくて“組み合わせの妙”のような、いわゆる意表をついた組み合わせを選んでいるのか。

■なるべく異ジャンルの人が話すことで“どんな化学反応が起きるのか”ということを楽しみにしつつキャスティングをしているが、あまり変化が起これないときもある。

○今回分しか聴いていないので何とも言えないが、今回に限って言うと狙った化学変化が番組に反映されていないのでは、という気がした。というのも個人的に湯山さんのファンで、著書も読んでるし、トークショーにも伺っているので、いつもの湯山さんについてよくわかっている。最初どんな話をするのだろう、という好奇心が非常にあった。他の委員の方がおっしゃるように本来の湯山さんはもっと毒のある人だし、その毒の部分が魅力。有村さんと湯山さんでは年齢も違うし、結婚歴でも異なる。この基本的な前提条件が異なる2人では「幸せ」の価値観、「結婚」の価値観に大きな温度差があると思う。だから本来、お互いに違うことを言っていてバトルが起こるくらいの方が普通だと思う。なのに、どこか予定調和的に話が進んでいて、面白みに欠けた。言えば誰でも知っている、という人でもないから、例えば番組の冒頭で「こちら

は結婚〇〇年、何歳の湯山さんで・・・」というようなプロフィールの説明があった方が良かったのでは、とも思う。そうしないとリスナーの方でキーワードが重なってこないし、話に身が入らなくて、何となく聴いて終わりになってしまう。さらにナビゲーターがソツなくまとめようとしているが、どう考えてもこの回のトークはまとまっていなかった。“いいヒントをいただきました”というコメントよりも、むしろあきれ果てて“結婚生活にもいろいろあるんですね”といったようなコメントの方が、聴いていても面白いと思うし2人が引き立ったのではないかと思う。いずれにせよ、湯山ファンとしては物足りない番組だった。

■TOKYO FM では、“毒のある番組”というのはオンエアしないのか？いつも“愛”とか“前向き”など、割と優等生な番組が多い印象がある。

○生ワイド番組で“男女の結婚の価値観の違い”のようなことを取り上げると非常にクレームが多い。よって今回の番組レベルでも非常にエッジが立っていると思っている。

■“毒”とか“棘”というのはある種の批評性として、絶対に必要なことだと思う。エッジ、というと変わったことであるように取られがちだが、時代性に対するの批評的な意見というのは必要なことだと思う。公共の電波ではあまり取り上げない部分であると思うので、そこを突破する方法があるのであれば、そこを取り上げることで、他を抜きん出ると思う。

■日曜日の朝に「幸せ」について語るような番組をTFMがやっているんだろうなあ、と思ってつけてみると、全くその通りの番組が流れるからラジオを聴かない、という人もいると思う。だから、時々でもいいから変えていかないとけない点。“意外とこんなやってるんだ、面白いね”というようにならないと聴きたいと思ってもらえない。聴く前から“こんな感じだろうな”と予想がつくものには、やはり面白みはないと思う。

○今回のような週末にオンエアされる番組で目指したいのは、30分番組の中に1個でも発見があったり、つい誰かに話したくなるようなことがあること。1社提供の番組を制作するためには、クライアント事情やTFMのステーション・イメージなど、制作者が考えなくてはいけない多くの与件がある。それを全て鑑みの上で、番組の世界観を含めて、その時間に聴いているリスナーに適した内容を吟味していかなくてはならない。今回、委員の皆様にご意見を含め、編成制作局全体で共有していきたいと考えている。

<第 429 回放送番組審議会>

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送:番組「SPO☆LOVE」
6月25日(土)5:00～6:50放送
- ② 書面:TOKYO FMサービスセンターに据え置き
- ③ インターネット:TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回の放送番組審議会を、7月5日(火)に開催することを決めた。